

生産者に会いに行ってきました

エスケー石鹸(株)

10月16日
まち八王子南

石けん、歯みがき材の製造メーカーとしての歩みを続けてきた、エスケー石鹸株式会社の埼玉県川口市工場へ10月16日に行ってきました。1918年に倉橋三平商会を設立し、1954年エスケー石鹸(株)設立、創業者倉橋三平氏のイニシャル「S.K」からエスケー石鹸と名付けられました。生活クラブとの提携は、1973年からです。

1983年、合成界面活性剤を使用したハミガキ粉しかない時代に、生活クラブの組合員の要望から、安心安全な自然派歯磨き粉を開発したり、食器への合成洗剤の残留が指摘されるようになると、学校給食の食器洗いに安全に使える石けんも開発したりしました。その後も、廃食用油の石けんへの利用など、「環境・安心・安全」という理念をもって企業活動をされています。

まずは石けん製造についての学習をしました。

石けんといえるものは2種類だけこれら以外は合成洗剤です。

- ① 脂肪酸ナトリウム（石けん素地）②脂肪酸カリウム（カリ石けん素地）

石けんの作り方はシンプル！

- ① ケン化法：油脂とアルカリを、熱を使って反応させる
- ② 中和法：油脂を精製し得た脂肪酸とアルカリを加熱なしで反応させる。



続いて、①液体せっけん ②粒状せっけん ③固型せっけん ④ハミガキの製造工程を、石けんの粉が衣服についたり、髪の毛などの異物が消費材に入らないようにキャップをかぶり、マスクをつけ、指定のボールペンを受け取って工場見学をしました。



消費材は熱エネルギー排出の少ない上記の「中和法」で製造しています。写真タンクで苛性カリ・精製水・脂肪酸を混ぜて「カリ石けん素地」を作ります。その後、調合タンクでクエン酸、グリセリン、香料など必要なものを添加し、フィルターを通した後、容器に充填され、消費材となります。

今年はまちで、カイワレ大根の発芽実験をしました。カイワレ大根は石けん水溶液では育ちますが、合成洗剤水溶液では育ちませんでした。石けんではメダカが生きていけますが、合成洗剤水溶液では生きていけません。人間に対してはどうでしょうか？合成洗剤を使っていた時期は手の湿疹がひどかったけれども、石けん生活に変えたら次第に治っていったと、石けんの安全性を自らの身で実感しているまち委員もいます。世の中にはベビー●●と謳っている合成洗剤もたくさん存在しています。肌の敏感な赤ちゃんに本当に使っているものでしょうか？石けんで洗濯した衣服は風合いが良く、フワフワで気持ちのいいものです。静電気も起きづらいですし、肌に安全で優しいですよ。

ぜひ、石けんを利用しましょう！

〈石けん水〉
フサフサ成長！

〈合成洗剤水〉
枯れて茶色



〈水〉